

(2) 小学校高学年での指導

 **こんな実践**

中学年の外国語活動から外国語科へとステップアップする高学年。子供たちは、これまで慣れ親しんできた外国語を使って、コミュニケーションをとる楽しさを感じることができるようになってきます。

高学年では、相手が言いたいことは何なのかを推測しながら聞き取ったり、自分が伝えたいことを、これまで慣れ親しんできた語句や表現を使って伝えようとしたりする活用的な活動ができるようになります。そこで、子供たちが意欲・関心を示すような身近な題材を設定し、必要感を感じながら意欲的に外国語を使うことを通してコミュニケーション能力を高めることを願って行った実践です。

実践学校 H小学校

実践学年 6 学年

実践時期 9 月中旬

単元・題材名 We Can! 2 Unit 4 I like my town.

学習指導要領との関連 ウ 話すこと [発表]

○普段の授業では、単元の中で使う表現を使った言語活動や、ALT と既習の表現を使ったやり取りを繰り返しています。その中で、児童は理解できる語句や表現を増やしていきます。外国語を使った活動を楽しみ、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする活動を通して、「慣れ親しんだ表現を使ったり絵や身振りなどの様々な方法を交えたりしながら表現を獲得し、自分たちの町を紹介しようとする姿」を目指し、本単元を構想しました。



ここがポイント！

- 映像教材を活用して単元で目指す姿をイメージでつかみます。
- Small Talk など、伝えたいことをやりとりする言語活動を繰り返し設け、困り感を友達と共有しながら共に解決していくことで、個々の語彙力も学級全体の語彙力も高めていきます。

○単元展開

Lesson Goal : A L Tの先生に、自分たちの町の良いところを紹介しよう。

第1時	A L Tによる自分の国の紹介を聞いて、自分の町を紹介するという単元で目指す姿のイメージをもつ。
第2時	Let's Listen,や Let's Play の活動を通して単元で扱う表現に慣れ親しむ。
第3時	学校の先生が自分の町を紹介しているビデオをみて、自分が伝えたいことを考えたり、発表のイメージをもったりする。
第4時	自分たちの町を紹介する内容を考える。(Small Talk を通して)
第5時	スピーチの練習をする。(繰り返しの要素)
第6時	A L Tに自分たちの町の良いところを紹介する。(発表)

○実際の授業の様子①ー教師の町紹介を動画でみるー

動画に撮影しておくことで隣のクラスの先生や他学年の先生でも授業に参加してもらうことができます。先生方が英語で紹介している様子は、子供たちにとっても新鮮で、より興味を引きまます。



Hello. I like Omachi-city. We have a lot of snow. So we can enjoy skiing. We can see beautiful mountain. Mt. Kashimayari, Mt. Jiigatake, Mt. Renge, and so on. We can drink delicious water. (実際に水を飲む)
Delicious! Please come to Omachi. Thank you.

動画に登場した先生たちがどんな内容をどのように話しているかということ子供たちはじっくりと見ていました。そこで子供たちは「自分たちの町だったら何が紹介できるだろう」「この先生みたいにかっこよく発表したいな」といった願いをもつことができました。身近な人が英語を使って自分の町を紹介している様子から子供たちは単元で目指す姿を視覚的につかんでいくことができます。

○実際の授業の様子②ーSmall Talk で困り感を友達と共有するー

友だちと英語でやり取りをするとき「これ英語でなんて言うのかな」「これを伝えたいんだけど、うまく言えないなあ」など、子供たちが困る場面があります。このようなときは、教師やALTがすぐに答えを教えるのではなく、子供と一緒に考えてみたり、知っている友達を巻き込んで考えてみたりするように促すことで、子供が知っている言葉の中から言いたいものを見つけることができます。

S1: What did you do in winter vacation?

S2: う～ん「かまくらを作った」って言いたいんだけど。
かまくらって何て言うのかな。

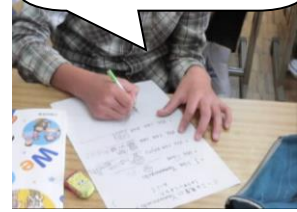
S3: イグルーじゃない? いや...スノードームかな。

S4: スノードームは違う気がする。

S2: ちょっと先生に聞きに行ってみる。

(ALT のところへ行って質問をする)

「かまくら」は英語で何て言うのかなあ?



S2: Kamakura, in English?

ALT: What is Kamakura?

S2: えっと, snow, and dome and ... (手で形を作って見せながら話す)

ALT: Oh, you mean, a snow house? (ジェスチャーでやってみせる)

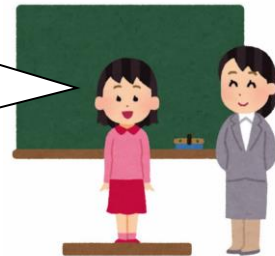
S2: Yes, yes, snow house.

S2 さんは、知っている言葉をつなげて何とか「かまくら」を英語で表現しようとなりました。そして ALT の先生とのやり取りの中から「a snow house」という言葉を獲得し、その後別の友達との Small Talk で使っている姿がありました。

○実際の授業の様子③－ALT の先生に自分の町紹介をする－

単元の終わりに、S2 さんは次のようなスピーチをしました。

I like Yamanouchi. We have Japanese style hotel. We can enjoy festival. In summer, we can see beautiful mountain. We can eat apples. In winter, we can enjoy a snow house, too.



S2 さんは a snow house の他に、Japanese style hotel や beautiful mountain などの言葉も加えました。これらの語句は S2 さんが ALT の先生とやり取りをして獲得したものや、友達が話していた表現を参考にしたものです。また、「かまくらを作った」と言いたかったところは We can enjoy festival. を参考にして we can enjoy a snow house, too. としました。

まとめ

子供たちは、自分の力で獲得した表現は自信をもって使っていきようになります。単元の中で同じような表現を何度も聞いたり話したりしていくことを繰り返していくことで、子供たちは表現の幅を少しずつ広げていき、伝えたい気持ちも徐々に高まっていきます。また、ある子がうまく言えないことを学級で共有していくことは、その子だけでなく学級全体の表現力を高めていくことにつながります。